



まちづくり検討会議

ニュースレター vol. 8

令和7年
2月

「学生検討会議を実施しました！」

～地域がアイデアを実践するにあたっての最終提案を考えよう～

1月30日（木）に、最後の学生検討会議を実施しました。

今まで出していただいた「こどもが主体的に活動に参加できる仕組みづくり」、「参加のきっかけにつながる情報の届け方」、「多様な主体との連携」のアイデアや文化祭の意見を踏まえて、**まずは実践するにあたって、誰がどのように進めていくのか、優先して取り組めそうなアイデアから内容を深め、最終の提案内容を考えました！**

◆学生検討会議概要

日時 2025.01.30（木） 15:00～17:00

会場 おにクル多目的室 M2

参加者数 学生 7名
地域の方 2名

プログラム

- 1 前回までの振り返り
- 2 グループワーク
- 3 まとめ
- 4 今後の調整
- 5 閉会

「こどもが主体的に活動に参加できる仕組みづくり」のアイデアでは、以前、**〇〇（ふるさと祭りの模擬店出店、文化祭の模擬店出店、地区体育祭）のための「こども会議」の実施**というアイデアが出ていました。その中で、何のためのこども会議の実施なのか、こどもやサポーターの募集方法、実施時期、募集チラシの内容など具体的な内容を考えました。

そして今回は、スケジュール的にも余裕を持って実施できる**文化祭の模擬店出店のための「こども会議」の実施**に決定しました。また、文化祭はローカルであるため、**こどもが活躍できるコミュニケーションの場であることも知ってもらう**機会になるという意見も出ました。



学生検討会議の様子

「参加のきっかけにつながる情報の届け方」では、イベント情報として、何に載せるのか、誰に配布するのか、どこで配布するのか、どんな内容を載せるのかなど具体的な情報発信の方法について話し合いました。

情報発信をする上で、「**思わず見てしまう工夫**」が大切であるという意見があり、大学生らしい「触ったら音が出る掲示物」というアイデアや「**掲示内容を四コマ漫画で表現してストーリー性を持たす**」などの斬新なアイデアも出ていました。

～実践するにあたっての提案～

(テーマ) こどもが主体的に活動に参加できる仕組みづくり	
タイトル	文化祭の模擬店出店のための「こども会議」の実施 文化祭はスケジュール的にやりやすい。また文化祭はローカルであるため、こどもの発表の場になるし、こどもが活躍できるコミュニケーションの場であることを知ってもらう機会にもなる。文化祭+こども祭りでもいい。
活動の目的	・企画段階からこどもに参画してもらうことで将来の担い手に繋げる。 ・こどもの親やサポートしてくれる人を担い手に繋げる。
取組	数人のこどものグループを作って、こどもの希望や意見を取り入れながら会議を進める。大人はサポートに入る。
具体的な内容	【誰がする？】 - こども会議の実施主体…地域協議会 【募集方法】 - サポーターの募集…大学生のサポーターを募集する。追手門学院大学や立命館大学のボランティアサークルに声掛けやチラシ配布を行う。また、梅花女子大学には、自治会というサークルがある。 - 一般のサポーター募集…参加者の保護者やPTA、自治会の回覧、チラシなどで募集し、協力いただく。 - こどもの参加者の募集…学校、こども会、放課後こども教室、学童保育室、自治会の回覧板、チラシ、大学生サポーターが直接声掛けに行く（中学生・高校生） 【具体的な内容】 - こどもの年齢は小学生～高校生まで広げる（高校生はサポーターにもなりえる→茨木高校依頼） - 具体的な募集方法…チラシには会議の日時、定員、アピールポイント（大学生→ガクチカ、小学生～高校生向けのアピールポイントは大学生と地域で考えるが小学生はキッズニアのようなイメージで経験でき、過程が大切なことを伝えるのがいいのでは）を記載。 - イメージ…小学生→楽しそうなら来る、中学生→発起人（大学生）が直接声をかける（サポートしてくれる人が顔を見せることが大切）、高校生→茨高の先生（きゃぱすのセンター長に協力してもらう）、大学生→サークルやボランティアに声掛けする。
何から始める？いつから？	①5月～6月 大学生募集（サポーターの募集） ②6月～7月 小学生、中学生、高校生にアナウンス ③8月会議始める（毎月第〇、第〇土曜日午後など日時をあらかじめ決めておく） 全体会議と学年別会議（小学生、中学生、高校生の振り分け大事） ④1か月前

ポイント◎

- ・募集方法の中でもチラシを配布してもらうだけでなく、サポーターである大学生が直接学校などに声をかけに行くことで顔が見え、安心して参加できる！
- ・募集方法の際のアピールポイントとして、大学生は学生時代頑張ったこととして就職活動などでも話せるような経験が増える！小学生～高校生にも経験ができ、過程が大切であることを伝えるのが大切。
- ・会議は、全学年で行う全体会議と小学生、中学生、高校生で分かれて行う学年別会議を行うアイデアも出ました！

～実践するにあたっての提案～

(テーマ) 参加のきっかけにつながる情報の届け方 地域の情報発信プラットフォームづくり	
タイトル	地域全体から担い手を募集する
活動の目的	イベントの参加者や担い手を増やす
取組	色々な媒体を活用した情報発信
具体的な内容	◎思わず見てしまう工夫 ・自転車の前かごにつけるプレートを活用した宣伝 ・自転車に募集案内の旗をつけて話題を提供する宣伝方法 ◎掲示板に目がいくよう仕掛ける ・触ったら音が出る掲示物を掲示する ・掲示内容を四コマ漫画で表現してストーリー性を持たす ・大きいQRコードだけをのせて印象付ける →読み込んだら動画再生・茨小の協議会のHPを活用する ◎その他 ・各組織の会議で直接担い手募集のアナウンスする 紙の案内→人から直接言われないと担い手の参加者は集まりにくい ・お店にチラシを配布 ・イベント告知の歌を募集してつくる
何から始める？ いつから？	【誰がする？】 地域協議会が中心となって、直近のイベントから始める。

ポイント◎

- ・掲示板などは、見ようとしないうりあまり見ないため、**思わず見てしまう工夫**が大切！
→自転車に募集案内の旗を付けたり、自転車の前かごに募集のプレートをつける、掲示物から音が鳴る等
- ・紙の案内でイベントのお手伝い募集をするよりも、**人から直接言ってもらった方が**参加しやすい。
- ・大きいQRコードを載せて目を引くようにして、**茨小のHPを活用し動画を再生できる工夫**をする！

参加者の声



大阪成蹊大学 谷渕さん

文化祭でのご意見を参考に会議
する中で、一人ひとりが大学での
学びや経験からアイデアを出し
合い、とても楽しい時間でした！
地域の方からも「それ面白い！」
などの温かいお言葉も頂けたこ
とも印象に残っています！

今後のまちづくりの取り組み
を提案する上で、いつから募集
をかけるか、全体の流れはどう
するかなど、1回きりの活動で
終わらせないような工夫を考
えました。いばまちサミットで
良い発表ができるように頑張
ります！



大阪成蹊大学 酒井さん

今後に向けて

次回は、報告会「いばまちサミット～楽しい・住みたい・私のまちでもやってみたい～」です！
今まで考えてきたアイデア、提案の内容を発表します♪